



I コマンド

この章では、I で始まる Cisco NX-OS セキュリティ コマンドについて説明します。

identity policy

アイデンティティ ポリシーを作成または指定して、アイデンティティ ポリシー コンフィギュレーション モードを開始するには、**identity policy** コマンドを使用します。アイデンティティ ポリシーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

identity policy *policy-name*

no identity policy *policy-name*

構文の説明

<i>policy-name</i>	アイデンティティ ポリシーの名前。名前は、最大 100 文字で、大文字と小文字を区別した英数字で指定します。
--------------------	--

デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザ ロール

network-admin
vdc-admin
VDC ユーザ

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、アイデンティティ ポリシーを作成して、アイデンティティ ポリシー コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# identity policy AdminPolicy
switch(config-id-policy)#
```

次に、アイデンティティ ポリシーを削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no identity policy AdminPolicy
```

関連コマンド

コマンド	説明
show identity policy	アイデンティティ ポリシーの情報を表示します。

identity profile eapoudp

Extensible Authentication Protocol over User Datagram Protocol (EAPoUDP) アイデンティティ プロファイルを作成して、アイデンティティ プロファイル コンフィギュレーション モードを開始するには、**identity profile eapoudp** コマンドを使用します。EAPoUDP アイデンティティ プロファイル設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

identity profile eapoudp

no identity profile eapoudp

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin
VDC ユーザ

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、EAPoUDP アイデンティティ プロファイルを作成して、アイデンティティ プロファイル コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# identity profile eapoudp
switch(config-id-policy)#
```

次に、EAPoUDP アイデンティティ プロファイル設定を削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no identity profile eapoudp
```

関連コマンド

コマンド	説明
show identity profile	アイデンティティ プロファイルの情報を表示します。

interface policy deny

ユーザ ロールに対してインターフェイス ポリシー コンフィギュレーション モードを開始するには、**interface policy deny** コマンドを使用します。ユーザ ロールのインターフェイス ポリシーをデフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

interface policy deny

no interface policy deny

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

すべてのインターフェイス

コマンド モード

ユーザ ロール コンフィギュレーション

サポートされるユーザ ロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、ユーザ ロール インターフェイス ポリシー コンフィギュレーション モードで **permit interface** コマンドを使用して許可したインターフェイスを除き、ユーザ ロールへのすべてのインターフェイスが拒否されます。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、ユーザ ロールに対して、ユーザ ロール インターフェイス ポリシー コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# role name MyRole
switch(config-role)# interface policy deny
switch(config-role-interface)#
```

次に、ユーザ ロールのインターフェイス ポリシーをデフォルト設定に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# role name MyRole
switch(config-role)# no interface policy deny
```

関連コマンド

コマンド	説明
permit interface	ロール インターフェイス ポリシーでインターフェイスを許可します。
role name	ユーザ ロールを作成または指定して、ユーザ ロール コンフィギュレーション モードを開始します。
show role	ユーザ ロールの情報を表示します。

ip access-class

仮想テラタイプ (VTY) アクセス コントロール リスト (ACL) を設定し、入力または出力方向のすべての VTY 回線の上のすべての IPv4 トラフィックへのアクセスを制御するには、**ip access-class** コマンドを使用します。VTY ACL を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip access-class *name* {**in** | **out**}

no ip access-class *name* {**in** | **out**}

構文の説明

<i>name</i>	アクセス クラス名。名前では最大 64 文字までの英数字を使用でき、大文字と小文字が区別されます。名前にはスペースまたは引用符を含めることはできません。
in	着信パケットを指定します。
out	発信パケットを指定します。

デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

VTY ACL 機能はすべての VTY 回線の上のすべてのトラフィックを制限します。異なる VTY 回線に異なるトラフィックの制限を指定できません。

どのルータの ACL も VTY ACL として設定できます。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、すべての VTY 回線の上のすべての IPv4 トラフィックへのアクセスを制御するように VTY ACL を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ip access-list vtyacl
switch(config-ip-acl)# exit
switch(config)# line vty
switch(config-line)# ip access-class vtyacl out
switch(config-line)#
```

次にすべての VTY 回線上のすべての IPv4 トラフィックから VTY ACL を削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line vty
switch(config-line)# no ip access-class vtyacl out
switch(config-line)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip access-list	IPv4 ACL を設定します。
show ip access-lists	特定の IPv4 ACL またはすべての IPv4 ACL を表示します。
show running-config interface	すべてのインターフェイスまたは特定のインターフェイスの実行コンフィギュレーションを表示します。

ip access-group

IPv4 Access Control List (ACL; アクセス コントロール リスト) をインターフェイスのルータ ACL として適用するには、**ip access-group** コマンドを使用します。インターフェイスから IPv4 ACL を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip access-group access-list-name {in | out}
```

```
no ip access-group access-list-name {in | out}
```

構文の説明

<i>access-list-name</i>	IPv4 ACL の名前。最大 64 文字で、大文字と小文字を区別した英数字で指定します。
in	(任意) ACL をインバウンドトラフィックに適用します。
out	(任意) ACL をアウトバウンドトラフィックに適用します。

デフォルト

なし

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

デフォルトでは、インターフェイスに IPv4 ACL は適用されません。

ip access-group コマンドを使用することにより、次のインターフェイス タイプに対して、IPv4 ACL をルータ ACL として適用できます。

- VLAN インターフェイス



(注) VLAN インターフェイスを設定する前に、VLAN インターフェイスをグローバルでイネーブルにする必要があります。詳細については、『*Cisco Nexus 7000 Series NX-OS Interfaces Command Reference*』の **feature interface-vlan** コマンドを参照してください。

- レイヤ 3 イーサネット インターフェイス
- レイヤ 3 イーサネット サブインターフェイス
- レイヤ 3 イーサネット ポート チャネル インターフェイスおよびサブインターフェイス
- トンネル
- ループバック インターフェイス

- 管理インターフェイス

また、**ip access-group** コマンドを使用して、次のインターフェイス タイプに対しても、IPv4 ACL をルータ ACL として適用できます。

- レイヤ 2 イーサネット インターフェイス
- レイヤ 2 イーサネット ポート チャンネル インターフェイス

ただし、**ip access-group** コマンドを使用してレイヤ 2 に適用した ACL は、ポート モードをルーテッド (レイヤ 3) モードに変更しない限り、アクティブになりません。IPv4 ACL をポート ACL として適用するには、**ip port access-group** コマンドを使用します。

IPv4 ACL を VLAN ACL として適用することもできます。詳細については、[P.394](#) の **match (VLAN アクセスマップ)** コマンドを参照してください。

ルータ ACL は、アウトバウンドまたはインバウンドのどちらかのトラフィックに適用されます。ACL がインバウンドトラフィックに適用されると、インバウンドパケットが ACL のルールに対してチェックされます。最初の一致ルールによってパケットが許可されると、そのパケットは引き続き処理されます。最初の一致ルールによってパケットが拒否されると、そのパケットはドロップされ、ICMP ホスト到達不能メッセージが戻されます。

アウトバウンドアクセス リストの場合は、受信したパケットはインターフェイスにルーティングされたあとで、ACL に対してチェックされます。最初の一致ルールによってパケットが許可されると、そのパケットは指定された宛先に送信されます。最初の一致ルールによってパケットが拒否されると、そのパケットはドロップされ、ICMP ホスト到達不能メッセージが戻されます。

デバイスから特定の ACL を削除した場合、インターフェイスからその ACL を削除しなくても、削除した ACL はインターフェイス上のトラフィックには影響しません。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、イーサネット インターフェイス 2/1 に対して、ip-acl-01 という IPv4 ACL を適用する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 2/1
switch(config-if)# ip access-group ip-acl-01 in
```

次に、イーサネット インターフェイス 2/1 から、ip-acl-01 という IPv4 ACL を削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 2/1
switch(config-if)# no ip access-group ip-acl-01 in
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip access-list	IPv4 ACL を設定します。
ip port access-group	IPv4 ACL をポート ACL として適用します。
show access-lists	すべての ACL を表示します。
show ip access-lists	特定の IPv4 ACL またはすべての IPv4 ACL を表示します。
show running-config interface	すべてのインターフェイスまたは特定のインターフェイスの実行コンフィギュレーションを表示します。

ip access-list

IPv4 Access Control List (ACL; アクセス コントロール リスト) を作成して、特定の ACL の IP アクセス リスト コンフィギュレーション モードを開始するには、**ip access-list** コマンドを使用します。IPv4 ACL を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip access-list *access-list-name*

no ip access-list *access-list-name*

構文の説明

access-list-name IPv4 ACL の名前。名前は最大 64 文字で、大文字と小文字を区別した英数字で指定します。スペースまたは引用符は使用できません。

デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザ ロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

デフォルトでは、IPv4 ACL は定義されません。

IPv4 トラフィックをフィルタリングするには、IPv4 ACL を使用します。

ip access-list コマンドを使用すると、IP アクセス リスト コンフィギュレーション モードが開始されます。このモードで、IPv4 **deny** コマンドおよび **permit** コマンドを使用し、ACL のルールを設定します。指定した ACL が存在しない場合は、このコマンドの入力時に新しい ACL が作成されます。

ACL をルータ ACL としてインターフェイスに適用するには、**ip access-group** コマンドを使用します。ACL をポート ACL としてインターフェイスに適用するには、**ip port access-group** コマンドを使用します。

すべての IPv4 ACL は、最終ルールとして、次の暗黙ルールが設定されます。

```
deny ip any any
```

この暗黙ルールによって、デバイスは不一致 IP トラフィックを確実に拒否します。

IPv6 ACL と異なり、IPv4 ACL には、ネイバー探索プロセスをイネーブルにする暗黙ルールは追加されません。IPv4 では、IPv6 ネイバー探索プロセスと同等のアドレス解決プロトコル (ARP) は、別のデータリンク レイヤプロトコルを使用します。デフォルトでは、IPv4 ACL は、インターフェイス上での ARP パケットの送受信を暗黙で許可します。

IPv4 ACL の各ルールの統計情報を記録するには、**statistics per-entry** コマンドを使用します。デバイスは、暗黙ルールの統計情報を記録しません。暗黙の **deny ip any any** ルールに一致したパケットの統計情報を記録するには、まったく同じルールを明示的に設定する必要があります。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、ip-acl-01 という IPv4 ACL の IP アクセス リスト コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ip access-list ip-acl-01
switch(config-acl)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
deny (IPv4)	IPv4 ACL に拒否 (deny) ルールを設定します。
ip access-group	IPv4 ACL をルータ ACL としてインターフェイスに適用します。
ip port access-group	IPv4 ACL をポート ACL としてインターフェイスに適用します。
permit (IPv4)	IPv4 ACL に許可 (permit) ルールを設定します。
show ip access-lists	すべての IPv4 ACL または特定の IPv4 ACL を表示します。
statistics per-entry	ACL の各エントリの統計情報の収集をイネーブルにします。

ip arp inspection filter

ARP Access Control List (ACL; アクセス コントロール リスト) を VLAN リストに適用するには、**ip arp inspection filter** コマンドを使用します。VLAN リストから ARP ACL を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip arp inspection filter *acl-name* **vlan** *vlan-list*

no ip arp inspection filter *acl-name* **vlan** *vlan-list*

構文の説明

<i>acl-name</i>	ARP ACL の名前。最大 64 文字で、大文字と小文字を区別した英数字で指定します。
vlan <i>vlan-list</i>	ARP ACL でフィルタリングする VLAN を指定します。 <i>vlan-list</i> 引数を使用すると、単一の VLAN ID、VLAN ID の範囲、またはカンマで区別された ID および範囲を指定できます（「例」を参照）。有効な VLAN ID は、1 ~ 4096 です。

デフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、VLAN 15 および 37 ~ 48 に対して、arp-acl-01 という ARP ACL を適用する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ip arp inspection filter arp-acl-01 vlan 15,37-48
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
arp access-list	ARP ACL を設定します。
ip arp inspection vlan	VLAN の指定されたリストの Dynamic ARP Inspection (DAI; ダイナミック ARP インспекション) をイネーブルにします。

コマンド	説明
<code>show ip arp inspection</code>	DAI 設定ステータスを表示します。
<code>show running-config dhcp</code>	DAI 設定を含む、DHCP スヌーピング設定を表示します。

ip arp inspection log-buffer

Dynamic ARP Inspection (DAI) ログイング バッファのサイズを設定するには、**ip arp inspection log-buffer** コマンドを使用します。DAI ログイング バッファをデフォルトのサイズに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip arp inspection log-buffer entries *number*

no ip arp inspection log-buffer entries *number*

構文の説明

entries *number* 0 ~ 1024 メッセージの範囲で、バッファ サイズを指定します。

デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

DAI ログイング バッファのデフォルトのサイズは、32 メッセージです。
このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、DAI ログイング バッファのサイズを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ip arp inspection log-buffer entries 64
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
clear ip arp inspection log	DAI ログイング バッファをクリアします。
show ip arp inspection	DAI 設定ステータスを表示します。
show running-config dhcp	DAI 設定を含めて、DHCP スヌーピング設定を表示します。

ip arp inspection trust

レイヤ 2 インターフェイスを信頼できる ARP インターフェイスとして設定するには、**ip arp inspection trust** コマンドを使用します。レイヤ 2 インターフェイスを信頼できない ARP インターフェイスとして設定するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip arp inspection trust

no ip arp inspection trust

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトでは、すべてのインターフェイスが信頼できない ARP インターフェイスです。

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

信頼できる ARP インターフェイスとして設定できるのは、レイヤ 2 イーサネット インターフェイスだけです。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、レイヤ 2 インターフェイスを信頼できる ARP インターフェイスとして設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 2/1
switch(config-if)# ip arp inspection trust
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show ip arp inspection	Dynamic ARP Inspection (DAI) の設定ステータスを表示します。
show ip arp inspection interface	指定されたインターフェイスの信頼状態および ARP パケット レートを表示します。
show running-config dhcp	DAI 設定を含めて、DHCP スヌーピング設定を表示します。

ip arp inspection validate

追加の Dynamic ARP Inspection (DAI) 検証をイネーブルにするには、**ip arp inspection validate** コマンドを使用します。追加の DAI をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip arp inspection validate {dst-mac [ip] [src-mac]}
```

```
ip arp inspection validate {[dst-mac] ip [src-mac]}
```

```
ip arp inspection validate {[dst-mac] [ip] src-mac}
```

```
no ip arp inspection validate {dst-mac [ip] [src-mac]}
```

```
no ip arp inspection validate {[dst-mac] ip [src-mac]}
```

```
no ip arp inspection validate {[dst-mac] [ip] src-mac}
```

構文の説明

dst-mac	(任意) イーサネット ヘッダーの宛先 MAC アドレスを、ARP 応答の ARP 本文にあるターゲット MAC アドレスと照合します。MAC アドレスが一致していないパケットは無効として分類され、ドロップされます。
ip	(任意) ARP 本文が有効で、予期された IP アドレスかどうかを検証します。このようなアドレスには、0.0.0.0、255.255.255.255、およびすべての IP マルチキャスト アドレスが含まれます。送信側 IP アドレスは、すべての ARP 要求および ARP 応答でチェックされます。ターゲット IP アドレスは ARP 応答でだけチェックされます。
src-mac	(任意) イーサネット ヘッダーの送信元 MAC アドレスを、ARP 要求および応答の ARP 本文にある送信側 MAC アドレスと照合します。MAC アドレスが一致していないパケットは無効として分類され、ドロップされます。

デフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

最小限、1 つのキーワードを指定する必要があります。複数のキーワードを指定する場合、順序は影響しません。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、追加の DAI 検証をイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal  
switch(config)# ip arp inspection validate src-mac dst-mac ip  
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show ip arp inspection	DAI 設定ステータスを表示します。
show running-config dhcp	DAI 設定を含めて、DHCP スヌーピング設定を表示します。

ip arp inspection vlan

VLAN リストに対して Dynamic ARP Inspection (DAI) をイネーブルにするには、**ip arp inspection vlan** コマンドを使用します。VLAN リストの DAI をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip arp inspection vlan *vlan-list* [logging dhcp-bindings {permit | all | none}]

no ip arp inspection vlan *vlan-list* [logging dhcp-bindings {permit | all | none}]

構文の説明

vlan-list	DAI をアクティブにする VLAN。 <i>vlan-list</i> 引数を使用すると、単一の VLAN ID、VLAN ID の範囲、またはカンマで区別された ID および範囲を指定できます（「例」を参照）。有効な VLAN ID は、1 ～ 4096 です。
logging	(任意) 指定した VLAN の DAI ログギングをイネーブルにします。 <ul style="list-style-type: none"> - all : DHCP バインディングと一致するすべてのパケットをログギングします。 - none : DHCP バインディング パケットをログギングしません（このオプションは、ログギングをディセーブルにする場合に使用します）。 - permit : DHCP バインディングで許可されたパケットをログギングします。
dhcp-bindings	DHCP バインディングの一致に基づくログギングをイネーブルにします。
permit	DHCP バインディング一致による許可パケットのログギングをイネーブルにします。
all	すべてのパケットのログギングをイネーブルにします。
none	ログギングをディセーブルにします。

デフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

デフォルトでは、DAI によって検査されたパケットはログギングされません。このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、VLAN 13、15、および 17～23 で DAI をイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal  
switch(config)# ip arp inspection vlan 13,15,17-23  
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip arp inspection validate	追加の DAI 検証をイネーブルにします。
show ip arp inspection	DAI 設定ステータスを表示します。
show ip arp inspection vlan	VLAN の指定されたリストの DAI ステータスを表示します。
show running-config dhcp	DAI 設定を含めて、DHCP スヌーピング設定を表示します。

ip dhcp packet strict-validation

DHCP スヌーピング機能による DHCP パケットの厳密な検証をイネーブルにするには、**ip dhcp packet strict-validation** コマンドを使用します。DHCP パケットの厳密な検証をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip dhcp packet strict-validation

no ip dhcp packet strict-validation

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(2)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

ip dhcp packet strict-validation コマンドを使用する前に、DHCP スヌーピングをイネーブルにする必要があります。

DHCP パケットの厳密な検証では、DHCP パケットの DHCP オプション フィールドの先頭 4 バイトの「magic cookie」値を含め、このオプション フィールドが有効であるかをチェックします。DHCP パケットの厳密な検証がイネーブルにされている場合、デバイスは検証に失敗した DHCP パケットをドロップします。

例

次に、DHCP パケットの厳密な検証をイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ip dhcp packet strict-validation
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature dhcp	デバイスの DHCP スヌーピング機能をイネーブルにします。
ip dhcp relay information option	DHCP リレー エージェントによって転送される DHCP パケットの option-82 情報の挿入および削除をイネーブルにします。

コマンド	説明
ip dhcp snooping	デバイスの DHCP スヌーピングをグローバルにイネーブルにします。
show ip dhcp snooping	DHCP スヌーピングに関する一般的な情報を表示します。
show running-config dhcp	IP ソース ガード設定を含めて、DHCP スヌーピング設定を表示します。

ip dhcp relay

DHCP リレー エージェントをイネーブルにするには、**ip dhcp relay** コマンドを使用します。DHCP リレー エージェントをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip dhcp relay

no ip dhcp relay

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.2(1)	このコマンドは、 service dhcp コマンドを置き換える目的で導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、DHCP スヌーピングをグローバルにイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ip dhcp relay
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature dhcp	デバイスの DHCP スヌーピング機能をイネーブルにします。
ip dhcp relay address	インターフェイスの DHCP サーバの IP アドレスを設定します。
ip dhcp relay information option	DHCP リレー エージェントによって転送される DHCP パケットの option-82 情報の挿入および削除をイネーブルにします。
ip dhcp relay sub-option type cisco	リンク選択、サーバ ID オーバーライド、および VRF 名 /VPN ID リレー エージェント Option 82 サブオプションを設定する場合は、DHCP をイネーブルにして、シスコ独自の番号である 150、152、および 151 を使用します。
ip dhcp snooping	デバイスの DHCP スヌーピングをグローバルにイネーブルにします。

コマンド	説明
show ip dhcp snooping	DHCP スヌーピングに関する一般的な情報を表示します。
show running-config dhcp	IP ソース ガード設定を含む、DHCP スヌーピング設定を表示します。

ip dhcp relay address

インターフェイス上に DHCP サーバの IP アドレスを設定するには、**ip dhcp relay address** コマンドを使用します。DHCP サーバの IP アドレスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip dhcp relay address *IP-address* [**use-vrf** *vrf-name*]

no ip dhcp relay address *IP-address* [**use-vrf** *vrf-name*]

構文の説明	
<i>IP-address</i>	DHCP サーバの IPv4 アドレス
use-vrf <i>vrf-name</i>	DHCP サーバが含まれる Virtual Routing and Forwarding (VRF; VPN ルーティングおよび転送) インスタンスを指定します。 <i>vrf-name</i> 引数は VRF の名前です。DHCP サーバに接続されているインターフェイスの VRF メンバシップによって、DHCP が含まれる VRF が決まります。

デフォルト なし

コマンドモード インターフェイス コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール network-admin
vdc-admin

コマンド履歴	リリース	変更箇所
	5.0(2)	use-vrf <i>vrf-name</i> オプションのサポートが追加されました。
	4.0(3)	レイヤ 3 イーサネット インターフェイスまたはサブインターフェイスの設定に、最大 4 つの ip dhcp relay address コマンドを追加できるようになりました。
	4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用するには、DHCP スヌーピング機能をイネーブルにする必要があります (**feature dhcp** コマンドを参照)。

レイヤ 3 イーサネット インターフェイスおよびサブインターフェイス、VLAN インターフェイス、およびレイヤ 3 ポート チャネルに、それぞれ最大 4 つの DHCP サーバ IP アドレスを設定できます。Cisco NX-OS Release 4.0.2 以前のリリースでは、1 つのインターフェイスに設定できる DHCP サーバ IP アドレスは 1 つだけです。

インターフェイス上にインバウンド DHCP BOOTREQUEST パケットが到達すると、リレー エージェントによって、そのインターフェイスに設定されているすべての DHCP サーバ IP アドレスに、パケットが転送されます。リレー エージェントは、すべての DHCP サーバからの応答を、要求を送信したホストへ転送します。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、特定のレイヤ 3 イーサネット インターフェイス上で受信した BOOTREQUEST がリレー エージェントによって転送されるように、インターフェイスに 2 つの DHCP サーバ IP アドレスを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 2/1
switch(config-if)# ip dhcp relay address 10.132.7.120
switch(config-if)# ip dhcp relay address 10.132.7.175
switch(config-if)#
```

次に、VLAN インターフェイス上に DHCP サーバの IP アドレスを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface vlan 13
switch(config-if)# ip dhcp relay address 10.132.7.120
switch(config-if)#
```

次に、レイヤ 3 ポートチャンネル インターフェイス上に DHCP サーバの IP アドレスを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface port-channel 7
switch(config-if)# ip dhcp relay address 10.132.7.120
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip dhcp relay	DHCP リレー エージェントをイネーブルまたはディセーブルにします。
ip dhcp relay information option	DHCP リレー エージェントによって転送される DHCP パケットの option-82 情報の挿入および削除をイネーブルにします。
ip dhcp relay information option vpn	DHCP リレー エージェントに対して VRF サポートをイネーブルにします。
ip dhcp relay sub-option type cisco	リンク 選択、サーバ ID オーバーライド、および VRF 名 /VPN ID リレー エージェント Option 82 サブオプションを設定する場合は、DHCP をイネーブルにして、シスコ独自の番号である 150、152、および 151 を使用します。
ip dhcp snooping	デバイスの DHCP スヌーピングをグローバルにイネーブルにします。
show ip dhcp snooping	DHCP スヌーピングに関する一般的な情報を表示します。
show running-config dhcp	IP ソース ガード設定を含む、DHCP スヌーピング設定を表示します。

ip dhcp relay information option

リレー エージェントによって転送された DHCP パケットでの option-82 情報の挿入および削除をイネーブルにするには、**ip dhcp relay information option** コマンドを使用します。option-82 情報の挿入および削除をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip dhcp relay information option

no ip dhcp relay information option

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトでは、リレー エージェントによって転送された DHCP パケットでの option-82 情報の挿入および削除は実行されません。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、DHCP スヌーピング機能をイネーブルにする必要があります (**feature dhcp** コマンドを参照)。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、DHCP リレー エージェントによって転送されるパケットでの option-82 情報の挿入および削除をイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ip dhcp relay information option
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip dhcp relay	DHCP リレー エージェントをイネーブルまたはディセーブルにします。
ip dhcp relay address	インターフェイス上に DHCP サーバの IP アドレスを設定します。

コマンド	説明
ip dhcp relay sub-option type cisco	リンク選択、サーバ ID オーバーライド、および VRF 名 /VPN ID リレー エージェント Option 82 サブオプションを設定する場合は、DHCP をイネーブルにして、シスコ独自の番号である 150、152、および 151 を使用します。
ip dhcp snooping	デバイスの DHCP スヌーピングをグローバルにイネーブルにします。
ip dhcp snooping information option	DHCP リレー エージェントを使用しないで転送された DHCP パケットでの option-82 情報の挿入および削除をイネーブルにします。
show running-config dhcp	IP ソース ガード設定を含む、DHCP スヌーピング設定を表示します。

ip dhcp relay information option vpn

DHCP リレー エージェントの VRF サポートをイネーブルにするには、**ip dhcp relay information option vpn** コマンドを使用します。VRF サポートをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip dhcp relay information option vpn

no ip dhcp relay information option vpn

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトで、デバイスは、DHCP クライアントが属する VRF 以外の別の VRF 内の DHCP サーバへの DHCP 要求の転送をサポートしていません。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(2)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、DHCP リレー エージェントの Option-82 情報の挿入をイネーブルにする必要があります (**ip dhcp relay information option** コマンドを参照してください)。

ある VRF 内のクライアントから、別の VRF 内の DHCP サーバに、DHCP ブロードキャストメッセージを転送するように、DHCP リレー エージェントを設定できます。単一の DHCP サーバを使用して複数の VRF のクライアントの DHCP をサポートできるため、IP アドレス プールを VRF ごとではなく 1 つにまとめることにより、IP アドレスを節約できます。

DHCP リレー アドレスと VRF 情報を設定したインターフェイスに DHCP 要求が着信した場合、DHCP サーバのアドレスが、別の VRF のメンバであるインターフェイスのネットワークに属するものであれば、デバイスは要求に Option 82 情報を挿入し、サーバの VRF の DHCP サーバに転送されます。別の VRF にリレーされる DHCP 要求にデバイスが追加する Option 82 情報には、次の情報が含まれます。

- VPN identifier (VPN ID) : DHCP 要求を受信するインターフェイスがメンバーである VRF の名前を格納します。
- Link selection (リンク選択) : DHCP 要求を受信するインターフェイスのサブネット アドレスを格納します。
- Server identifier override (サーバ ID 上書き) : DHCP 要求を受信するインターフェイスの IP アドレスを格納します。

デバイスは DHCP 応答メッセージを受信すると、Option 82 情報を取り除き、クライアントの VRF の DHCP クライアントに応答を転送します。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、DHCP リレー エージェントの VRF サポートをイネーブルにする例を示します。これは DHCP リレー エージェントの Option-82 サポートのイネーブル化に依存します。さらに、DHCP サーバが SiteA という VRF にある場合に、レイヤ 3 インターフェイス上に DHCP サーバアドレスを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ip dhcp relay information option
switch(config)# ip dhcp relay information option vpn
switch(config)# interface ethernet 1/3
switch(config-if)# ip dhcp relay address 10.43.87.132 use-vrf SiteA
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip dhcp relay	DHCP リレー エージェントをイネーブルまたはディセーブルにします。
ip dhcp relay address	インターフェイス上に DHCP サーバの IP アドレスを設定します。
ip dhcp relay information option	DHCP リレー エージェントによって転送される DHCP パケットの option-82 情報の挿入および削除をイネーブルにします。
ip dhcp relay sub-option type cisco	リンク選択、サーバ ID オーバーライド、および VRF 名/VPN ID リレー エージェント Option 82 サブオプションを設定する場合は、DHCP をイネーブルにして、シスコ独自の番号である 150、152、および 151 を使用します。
ip dhcp snooping	デバイスの DHCP スヌーピングをグローバルにイネーブルにします。
show running-config dhcp	IP ソース ガード設定を含む、DHCP スヌーピング設定を表示します。

ip dhcp relay subnet-broadcast

Cisco NX-OS デバイスを、クライアントからサブネットのブロードキャスト IP アドレスへのダイナミック ホスト コンフィギュレーション プロトコル (DHCP) パケットのリレーをサポートするように設定するには、**ip dhcp relay subnet-broadcast** コマンドを使用します。デフォルトの動作に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip dhcp relay subnet-broadcast

no ip dhcp relay subnet-broadcast

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード (config-if)

サポートされるユーザ ロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.2(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

DHCP スマート リレーと DHCP サブネット ブロードキャストのサポートは、それがイネーブルにされているインターフェイスの最初の 100 個の IP アドレスに制限されます。

DHCP スマート リレーと DHCP サブネット ブロードキャストのサポートを使用するには、インターフェイスでヘルパー アドレスを設定する必要があります。

DHCP スマート リレーと DHCP サブネット ブロードキャストのサポートは、それがイネーブルにされているインターフェイスの最初の 100 個の IP アドレスに制限されます。

DHCP スマート リレーがイネーブルになっている vPC 環境では、インターフェイスのプライマリおよびセカンダリ アドレスのサブネットは、両方の Cisco NX-OS デバイスで同じである必要があります。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、クライアントからサブネットのブロードキャスト IP アドレスへの DHCP パケットのリレーをサポートするように、Cisco NX-OS デバイスを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 3/2
switch(config-if)# ip dhcp relay subnet-broadcast
switch(config-if)
```

次に、クライアントからサブネットのブロードキャスト IP アドレスへ DHCP パケットをリレーするための設定を削除する例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 3/2  
switch(config-if)# no ip dhcp relay subnet-broadcast
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature dhcp	デバイスで DHCP 機能をイネーブルにします。
ip dhcp relay	DHCP リレー エージェントをイネーブルにします。

ip dhcp relay sub-option type cisco

DHCP で、link selection（リンク選択）、server ID override（サーバ ID 上書き）、VRF name/VPN ID（VRF 名/VPN ID）リレー エージェント option-82 サブオプションの入力時に、シスコ専用の番号 150、152、および 151 を使用できるようにするには、**ip dhcp relay sub-option type cisco** コマンドを使用します。DHCP のこれらの専用の番号の使用をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

ip dhcp relay sub-option type cisco

no ip dhcp relay sub-option type cisco

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

ディセーブル。DHCP は link selection（リンク選択）、server ID override（サーバ ID 上書き）、VRF name/VPN ID（VRF 名/VPN ID）サブオプションに、それぞれ RFC 5 番、11 番、151 番を使用します。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(2)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、DHCP で、link selection（リンク選択）、server ID override（サーバ ID 上書き）、VRF name/VPN ID（VRF 名/VPN ID）リレー エージェント option-82 サブオプションの入力時に、シスコ専用の番号 150、152、および 151 を使用できるようにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ip dhcp relay sub-option type cisco
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature dhcp	デバイスの DHCP スヌーピング機能をイネーブルにします。
ip dhcp relay	DHCP リレー エージェントをイネーブルにします。
ip dhcp relay address	インターフェイスの DHCP サーバの IP アドレスを設定します。

コマンド	説明
ip dhcp relay information option	DHCP リレー エージェントによって転送される DHCP パケットの option-82 情報の挿入および削除をイネーブルにします。
ip dhcp snooping	デバイスの DHCP スヌーピングをグローバルにイネーブルにします。
show ip dhcp snooping	DHCP スヌーピングに関する一般的な情報を表示します。
show running-config dhcp	IP ソース ガード設定を含む、DHCP スヌーピング設定を表示します。

ip dhcp smart-relay

レイヤ 3 インターフェイスでダイナミック ホスト コンフィギュレーション プロトコル (DHCP) スマート リレーをイネーブルにするには、**ip dhcp smart-relay** コマンドを使用します。レイヤ 3 インターフェイス上で DHCP スマート リレーをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip dhcp smart-relay

no ip dhcp smart-relay

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード (config-if)

サポートされるユーザ ロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.2(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

DHCP のスマート リレー エージェントは、デフォルトとデフォルト以外の VDC で個別に設定できません。

ip dhcp smart-relay global コマンドを使用する前に、**ip dhcp relay** コマンドを使用して IP DHCP リレー エージェントをイネーブルにする必要があります。

DHCP スマート リレーと DHCP サブネット ブロードキャストのサポートは、それがイネーブルにされているインターフェイスの最初の 100 個の IP アドレスに制限されます。

DHCP スマート リレーと DHCP サブネット ブロードキャストのサポートを使用するには、インターフェイスでヘルパー アドレスを設定する必要があります。

DHCP スマート リレーと DHCP サブネット ブロードキャストのサポートは、それがイネーブルにされているインターフェイスの最初の 100 個の IP アドレスに制限されます。

最大 10,000 個のクライアントが DHCP スマート リレーをいつでも使用できます。

DHCP スマート リレーがイネーブルになっている vPC 環境では、インターフェイスのプライマリおよびセカンダリ アドレスのサブネットは、両方の Cisco NX-OS デバイスで同じである必要があります。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、レイヤ 3 インターフェイス上で DHCP スマート リレーをイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal  
switch(config)# interface ethernet 7/2  
switch(config-if)# ip dhcp smart-relay  
switch(config-if)#
```

次に、レイヤ 3 インターフェイス上で DHCP スマート リレーをディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal  
switch(config)# interface ethernet 7/2  
switch(config-if)# no ip dhcp smart-relay  
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip dhcp smart-relay global	Cisco NX-OS デバイスで DHCP スマート リレーをグローバルにイネーブルにします。
ip dhcp relay	DHCP リレー エージェントをイネーブルにします。

ip dhcp smart-relay global

Cisco NX-OS デバイスでダイナミック ホスト コンフィギュレーション プロトコル (DHCP) スマート リレーをグローバルにイネーブルにするには、**ip dhcp smart-relay global** コマンドを使用します。Cisco NX-OS デバイスで DHCP スマート リレーをグローバルにディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip dhcp smart-relay global

no ip dhcp smart-relay global

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

サポートされるユーザ ロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.2(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

DHCP のスマート リレー エージェントは、デフォルトとデフォルト以外の VDC で個別に設定できません。

ip dhcp smart-relay global コマンドを使用する前に、**ip dhcp relay** コマンドを使用して IP DHCP リレー エージェントをイネーブルにする必要があります。

DHCP スマート リレーと DHCP サブネットブロードキャストのサポートは、それがイネーブルにされているインターフェイスの最初の 100 個の IP アドレスに制限されます。

DHCP スマート リレーと DHCP サブネットブロードキャストのサポートを使用するには、インターフェイスでヘルパー アドレスを設定する必要があります。

最大 10,000 個のクライアントが DHCP スマート リレーをいつでも使用できます。

DHCP スマート リレーがイネーブルになっている vPC 環境では、インターフェイスのプライマリおよびセカンダリ アドレスのサブネットは、両方の Cisco NX-OS デバイスで同じである必要があります。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、Cisco NX-OS デバイスで DHCP スマート リレーをグローバルにイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ip dhcp relay
switch(config)# ip dhcp smart-relay global
switch(config)#
```

次に、Cisco NX-OS デバイスで DHCP スマート リレーをグローバルにディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no ip dhcp smart-relay global
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip dhcp smart-relay	レイヤ 3 インターフェイス上で DHCP スマート リレーをイネーブルにします。
ip dhcp relay	DHCP リレー エージェントをイネーブルにします。

ip dhcp snooping

デバイス上で DHCP スヌーピングをグローバルでイネーブルにするには、**ip dhcp snooping** コマンドを使用します。DHCP スヌーピングをグローバルでディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip dhcp snooping

no ip dhcp snooping

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトでは、DHCP スヌーピングはグローバルにディセーブルです。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、DHCP スヌーピング機能をイネーブルにする必要があります (**feature dhcp** コマンドを参照)。

no ip dhcp snooping コマンドを使用して DHCP スヌーピングをディセーブルにすると、デバイスの DHCP スヌーピング設定が保持されます。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、DHCP スヌーピングをグローバルにイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ip dhcp snooping
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature dhcp	デバイスの DHCP スヌーピング機能をイネーブルにします。
ip dhcp relay	DHCP リレー エージェントをイネーブルまたはディセーブルにします。
ip dhcp snooping information option	DHCP リレー エージェントを使用しないで転送された DHCP パケットでの option-82 情報の挿入および削除をイネーブルにします。

コマンド	説明
ip dhcp snooping trust	インターフェイスを、DHCP メッセージの信頼できる送信元として設定します。
ip dhcp snooping vlan	特定の VLAN 上で DHCP スヌーピングをイネーブルにします。
show ip dhcp snooping	DHCP スヌーピングに関する一般的な情報を表示します。
show running-config dhcp	IP ソース ガード設定を含めて、DHCP スヌーピング設定を表示します。

ip dhcp snooping information option

DHCP パケットの option-82 情報の挿入および削除をイネーブルにするには、**ip dhcp snooping information option** コマンドを使用します。option-82 情報の挿入および削除をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip dhcp snooping information option

no ip dhcp snooping information option

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトでは、option-82 情報の挿入および削除は実行されません。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、DHCP スヌーピング機能をイネーブルにする必要があります (**feature dhcp** コマンドを参照)。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、DHCP スヌーピングをグローバルにイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ip dhcp snooping information option
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip dhcp relay information option	DHCP リレー エージェントによって転送される DHCP パケットの option-82 情報の挿入および削除をイネーブルにします。
ip dhcp snooping	デバイスの DHCP スヌーピングをグローバルにイネーブルにします。
ip dhcp snooping trust	インターフェイスを、DHCP メッセージの信頼できる送信元として設定します。
ip dhcp snooping vlan	特定の VLAN 上で DHCP スヌーピングをイネーブルにします。

コマンド	説明
show ip dhcp snooping	DHCP スヌーピングに関する一般的な情報を表示します。
show running-config dhcp	IP ソース ガード設定を含めて、DHCP スヌーピング設定を表示します。

ip dhcp snooping trust

インターフェイスを DHCP メッセージの信頼できる送信元として設定するには、**ip dhcp snooping trust** コマンドを使用します。インターフェイスを DHCP メッセージの信頼できない送信元として設定するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip dhcp snooping trust

no ip dhcp snooping trust

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトでは、DHCP メッセージの信頼できる送信元として設定されるインターフェイスはありません。

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、DHCP スヌーピング機能をイネーブルにする必要があります (**feature dhcp** コマンドを参照)。

DHCP の信頼状態は、次のタイプのインターフェイスに設定できます。

- レイヤ 3 イーサネット インターフェイスおよびサブインターフェイス
- レイヤ 2 イーサネット インターフェイス
- プライベート VLAN インターフェイス

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、インターフェイスを DHCP メッセージの信頼できる送信元として設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 2/1
switch(config-if)# ip dhcp snooping trust
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip dhcp snooping	デバイスの DHCP スヌーピングをグローバルにイネーブルにします。
ip dhcp snooping information option	DHCP リレー エージェントを使用しないで転送された DHCP パケットでの option-82 情報の挿入および削除をイネーブルにします。
ip dhcp snooping verify mac-address	MAC アドレス検証を、DHCP スヌーピングの一部としてイネーブルにします。
ip dhcp snooping vlan	特定の VLAN 上で DHCP スヌーピングをイネーブルにします。
show ip dhcp snooping	DHCP スヌーピングに関する一般的な情報を表示します。
show running-config dhcp	IP ソース ガード設定を含めて、DHCP スヌーピング設定を表示します。

ip dhcp snooping verify mac-address

DHCP スヌーピングの MAC アドレス検証をイネーブルにするには、**ip dhcp snooping verify mac-address** コマンドを使用します。DHCP スヌーピングの MAC アドレス検証をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip dhcp snooping verify mac-address

no ip dhcp snooping verify mac-address

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

デフォルトでは、DHCP スヌーピングでの MAC アドレス検証はディセーブルです。

このコマンドを使用するには、DHCP スヌーピング機能をイネーブルにする必要があります (**feature dhcp** コマンドを参照)。

信頼できないインターフェイスからパケットを受信し、この送信元 MAC アドレスと DHCP クライアントハードウェアアドレスが一致しない場合、アドレス検証によってデバイスはパケットをドロップします。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、DHCP スヌーピングの MAC アドレス検証をイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ip dhcp snooping verify mac-address
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip dhcp relay	DHCP リレー エージェントをイネーブルまたはディセーブルにします。
ip dhcp snooping	デバイスの DHCP スヌーピングをグローバルにイネーブルにします。

コマンド	説明
ip dhcp snooping information option	DHCP リレー エージェントを使用しないで転送された DHCP パケットでの option-82 情報の挿入および削除をイネーブルにします。
ip dhcp snooping trust	インターフェイスを、DHCP メッセージの信頼できる送信元として設定します。
ip dhcp snooping vlan	特定の VLAN 上で DHCP スヌーピングをイネーブルにします。
show ip dhcp snooping	DHCP スヌーピングに関する一般的な情報を表示します。
show running-config dhcp	IP ソース ガード設定を含めて、DHCP スヌーピング設定を表示します。

ip dhcp snooping vlan

1 つまたは複数の VLAN 上で DHCP スヌーピングをイネーブルにするには、**ip dhcp snooping vlan** コマンドを使用します。1 つまたは複数の VLAN 上で DHCP スヌーピングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip dhcp snooping vlan *vlan-list*

no ip dhcp snooping vlan *vlan-list*

構文の説明

vlan-list DHCP スヌーピングをイネーブルにする VLAN 範囲。*vlan-list* 引数を使用すると、単一の VLAN ID、VLAN ID の範囲、またはカンマで区別された ID および範囲を指定できます（「例」を参照）。有効な VLAN ID は、1 ～ 4096 です。

デフォルト

デフォルトでは、すべての VLAN 上で DHCP スヌーピングはディセーブルです。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、DHCP スヌーピング機能をイネーブルにする必要があります（**feature dhcp** コマンドを参照）。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、VLAN 100、200、および 250 ～ 252 で DHCP スヌーピングをイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ip dhcp snooping vlan 100,200,250-252
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip dhcp snooping	デバイスの DHCP スヌーピングをグローバルにイネーブルにします。
ip dhcp snooping information option	DHCP リレー エージェントを使用しないで転送された DHCP パケットでの option-82 情報の挿入および削除をイネーブルにします。
ip dhcp snooping trust	インターフェイスを、DHCP メッセージの信頼できる送信元として設定します。

コマンド	説明
ip dhcp snooping verify mac-address	MAC アドレス検証を、DHCP スヌーピングの一部としてイネーブルにします。
show ip dhcp snooping	DHCP スヌーピングに関する一般的な情報を表示します。
show running-config dhcp	IP ソース ガード設定を含めて、DHCP スヌーピング設定を表示します。

ip port access-group

IPv4 Access Control List (ACL; アクセス コントロール リスト) をインターフェイスのポート ACL として適用するには、**ip port access-group** コマンドを使用します。インターフェイスから IPv4 ACL を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip port access-group access-list-name in

no ip port access-group access-list-name in

構文の説明

<i>access-list-name</i>	IPv4 ACL の名前。最大 64 文字で、大文字と小文字を区別した英数字で指定します。
in	ACL を着信トラフィックに適用するように指定します。

デフォルト

in

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

デフォルトでは、インターフェイスに IPv4 ACL は適用されません。

ip port access-group コマンドを使用することにより、次のインターフェイス タイプに対して、IPv4 ACL をポート ACL として適用できます。

- レイヤ 2 イーサネット インターフェイス
- レイヤ 2 イーサネット ポート チャンネル インターフェイス

また、**ip port access-group** コマンドを使用して、次のインターフェイス タイプにも、IPv4 ACL をポート ACL として適用できます。

- VLAN インターフェイス



(注) VLAN インターフェイスを設定する前に、VLAN インターフェイスをグローバルでイネーブルにする必要があります。詳細については、『Cisco Nexus 7000 Series NX-OS Interfaces Command Reference』の **feature interface-vlan** コマンドを参照してください。

- レイヤ 3 イーサネット インターフェイス
- レイヤ 3 イーサネット サブインターフェイス

- レイヤ 3 イーサネット ポート チャネル インターフェイスおよびサブインターフェイス
- トンネル
- ループバック インターフェイス
- 管理インターフェイス

ただし、**ip port access-group** コマンドを使用してレイヤ 3 インターフェイスに適用した ACL は、ポート モードをアクセスまたはトランク（レイヤ 2）モードに変更しない限り、アクティブになりません。IPv4 ACL をルータ ACL として適用するには、**ip access-group** コマンドを使用します。

IPv4 ACL を VLAN ACL として適用することもできます。詳細については、[P.394](#)の **match (VLAN アクセスマップ)** コマンドを参照してください。

ポート ACL が適用されるのは、インバウンド トラフィックだけです。インバウンド パケットは、デバイス上で ACL のルールに対してチェックされます。最初の一致ルールによってパケットが許可されると、そのパケットは引き続き処理されます。最初の一致ルールによってパケットが拒否されると、そのパケットはドロップされ、ICMP ホスト到達不能メッセージが戻されます。

デバイスから特定の ACL を削除した場合、インターフェイスからその ACL を削除しなくても、削除した ACL はインターフェイス上のトラフィックには影響しません。

レイヤ 2 インターフェイスで MAC パケット分類がイネーブルにされている場合、インターフェイス上では **ip port access-group** コマンドは使用できません。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、イーサネット インターフェイス 2/1 に対して、**ip-acl-01** という IPv4 ACL をポート ACL として適用する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 2/1
switch(config-if)# ip port access-group ip-acl-01 in
```

次に、イーサネット インターフェイス 2/1 から、**ip-acl-01** という IPv4 ACL を削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 2/1
switch(config-if)# no ip port access-group ip-acl-01 in
```

次に、MAC パケット分類がイネーブルのときに、インターフェイスに IPv4 ポート ACL を適用すると表示される、イーサネット インターフェイスとエラー メッセージの設定を参照する方法を示します。

```
switch(config)# show running-config interface ethernet 2/3

!Command: show running-config interface Ethernet2/3
!Time: Wed Jun 24 13:06:49 2009

version 4.2(1)

interface Ethernet2/3
  ip access-group ipacl in
  mac port access-group macacl
  switchport
  mac packet-classify

switch(config)# interface ethernet 2/3
switch(config-if)# ip port access-group ipacl in
ERROR: The given policy cannot be applied as mac packet classification is enable
d on this port
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip access-group	IPv4 ACL をルータ ACL としてインターフェイスに適用します。
ip access-list	IPv4 ACL を設定します。
mac packet-classify	レイヤ 2 インターフェイス上の MAC パケット分類をイネーブルにします。
show access-lists	すべての ACL を表示します。
show ip access-lists	特定の IPv4 ACL またはすべての IPv4 ACL を表示します。
show running-config interface	すべてのインターフェイスまたは特定のインターフェイスの実行コンフィギュレーションを表示します。
statistics per-entry	ACL の各エントリの統計情報の収集をイネーブルにします。

ip radius source-interface

RADIUS サーバ グループでグローバル ソース インターフェイスを割り当てるには、**ip radius source-interface** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip radius source-interface *interface*

no ip radius source-interface

構文の説明

interface 送信元インターフェイス。サポートされるインターフェイス タイプは、**ethernet**、**loopback**、および **mgmt 0** です。

デフォルト

使用可能なインターフェイス

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザ ロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.1(2)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、RADIUS サーバ グループのグローバル ソース インターフェイスを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ip radius source-interface mgmt 0
```

次に、RADIUS サーバ グループのグローバル ソース インターフェイスを削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no ip radius source-interface
```

関連コマンド

コマンド	説明
show radius-server groups	RADIUS サーバ グループの設定を表示します。

ip source binding

レイヤ 2 イーサネット インターフェイス用の固定 IP ソース エントリを作成するには、**ip source binding** コマンドを使用します。固定 IP ソース エントリをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip source binding *IP-address MAC-address vlan vlan-id interface ethernet slot/port*

no ip source binding *IP-address MAC-address vlan vlan-id interface ethernet slot/port*

構文の説明

<i>IP-address</i>	特定のインターフェイス上で使用する IPv4 アドレス。有効なエントリは、ドット付き 10 進表記です。
<i>MAC-address</i>	特定のインターフェイス上で使用する MAC アドレス。有効なエントリは、ドット付き 16 進表記です。
vlan <i>vlan-id</i>	IP ソース エントリに関連付ける VLAN を指定します。
interface ethernet <i>slot/port</i>	固定 IP エントリに関連付けるレイヤ 2 イーサネット インターフェイスを指定します。

デフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

デフォルトでは、固定 IP ソース エントリは作成されません。
このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、イーサネット インターフェイス 2/3 上に、VLAN 100 に関連付ける固定 IP ソース エントリを作成する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ip source binding 10.5.22.7 001f.28bd.0013 vlan 100 interface ethernet 2/3
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip verify source dhcp-snooping-vlan	インターフェイスの IP ソース ガードをイネーブルにします。
show ip verify source	IP と MAC アドレスのバインディングを表示します。
show running-config dhcp	IP ソース ガード設定を含めて、DHCP スヌーピング設定を表示します。

ip tacacs source-interface

TACACS+ サーバ グループでグローバル ソース インターフェイスを割り当てるには、**ip tacacs source-interface** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip tacacs source-interface *interface*

no ip tacacs source-interface

構文の説明

interface 送信元インターフェイス。サポートされるインターフェイス タイプは、**ethernet**、**loopback**、および **mgmt 0** です。

デフォルト

使用可能なインターフェイス

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザ ロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.1(2)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

TACACS+ を設定する前に、**feature tacacs+** コマンドを使用する必要があります。このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、TACACS+ サーバ グループのグローバル ソース インターフェイスを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ip tacacs source-interface mgmt 0
```

次に、TACACS+ サーバ グループのグローバル ソース インターフェイスを削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no ip tacacs source-interface
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature tacacs+	TACACS+ 機能をイネーブルにします。
show tacacs-server groups	TACACS+ サーバ グループの設定を表示します。

ipv6 access-class

仮想タイプ (VTY) アクセス コントロール リスト (ACL) を設定し、入力または出力方向のすべての VTY 回線上のすべての IPv6 トラフィックへのアクセスを制御するには、**ipv6 access-class** コマンドを使用します。すべての VTY 回線でトラフィックから VTY ACL コントロール アクセスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ipv6 access-class name {in | out}
```

```
no ipv6 access-class name {in | out}
```

構文の説明

name	アクセス クラス名。名前では最大 64 文字までの英数字を使用でき、大文字と小文字が区別されます。名前にはスペースまたは引用符を含めることはできません。
in	着信パケットを指定します。
out	発信パケットを指定します。

デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザ ロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

VTY ACL 機能はすべての VTY 回線のすべてのトラフィックを制限します。異なる VTY 回線に異なるトラフィックの制限を指定できません。

どのルータの ACL も VTY ACL として設定できます。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、すべての VTY 回線上のすべての IPv6 トラフィックへのアクセスを制御するように VTY ACL を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ip access-list vtyacl
switch(config-ip-acl)# exit
switch(config)# line vty
switch(config-line)# ipv6 access-class vtyacl1 in
switch(config-line)#
```

次に、すべての VTY 回線上の IPv6 トラフィックから VTY ACL を削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line vty
switch(config-line)# no ipv6 access-class vtyacl1 in
switch(config-line)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip6 access-list	IPv6 ACL を設定します。
show ip6 access-lists	特定の IPv6 ACL またはすべての IPv4 ACL を表示します。
show running-config interface	すべてのインターフェイスまたは特定のインターフェイスの実行コンフィギュレーションを表示します。

ip verify source dhcp-snooping-vlan

レイヤ 2 イーサネット インターフェイス上で IP ソース ガードをイネーブルにするには、**ip verify source dhcp-snooping-vlan** コマンドを使用します。インターフェイス上で IP ソース ガードをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip verify source dhcp-snooping-vlan

no ip verify source dhcp-snooping-vlan

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

なし

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション

サポートされるユーザ ロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

デフォルトでは、すべてのインターフェイス上で IP ソース ガードはディセーブルです。このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、インターフェイス上で IP ソース ガードをイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 2/1
switch(config-if)# ip verify source dhcp-snooping-vlan
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip source binding	指定したイーサネット インターフェイスのスタティック IP ソース エントリを作成します。
show ip verify source	IP と MAC アドレスのバインディングを表示します。

ip verify unicast source reachable-via

インターフェイス上で Unicast Reverse Path Forwarding (ユニキャスト RPF) を設定するには、**ip verify unicast source reachable-via** コマンドを使用します。インターフェイスからユニキャスト RPF を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip verify unicast source reachable-via {any [allow-default] | rx}

no ip verify unicast source reachable-via {any [allow-default] | rx}

構文の説明

any	ルーズ チェックを指定します。
allow-default	(任意) 特定のインターフェイス上で使用する MAC アドレスを指定します。
rx	ストリクト チェックを指定します。

デフォルト

なし

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

入力側インターフェイスで、次のユニキャスト RPF モードの 1 つを設定できます。

ストリクト ユニキャスト RPF モード: ストリクト モード チェックは、次の一致が検出された場合に成功します。

- ユニキャスト RPF が、Forwarding Information Base (FIB; 転送情報ベース) でパケット送信元アドレスの一致を検出。
- パケットを受信した入力側インターフェイスが、FIB 一致のユニキャスト RPF インターフェイスの 1 つと一致。

これらのチェックに失敗すると、パケットは廃棄されます。このタイプのユニキャスト RPF チェックは、パケットフローが対称であると予想される場合に使用できます。

ルーズ ユニキャスト RPF モード: ルーズ モード チェックは、FIB でのパケット送信元アドレスの検索が一致し、最低 1 つの実インターフェイスを経由して送信元に到達可能であるという FIB 結果が示された場合に成功します。パケットを受信した入力インターフェイスが FIB 内のインターフェイスのいずれかと一致する必要はありません。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、インターフェイス上にルーズユニキャスト RPF チェックを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 2/3
switch(config-if)# ip verify unicast source reachable-via any
```

次に、インターフェイス上にストリクトユニキャスト RPF チェックを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 2/3
switch(config-if)# ip verify unicast source reachable-via rx
```

関連コマンド

コマンド	説明
show ip interface ethernet	インターフェイスの IP 関連情報を表示します。
show running-config interface ethernet	実行コンフィギュレーション内のインターフェイスの設定を表示します。
show running-config ip	実行コンフィギュレーションの IP 設定を表示します。
show startup-config interface ethernet	スタートアップコンフィギュレーション内のインターフェイスの設定を表示します。
show startup-config ip	スタートアップコンフィギュレーション内の IP 設定を表示します。

ipv6 access-list

IPv6 Access Control List (ACL; アクセス コントロール リスト) を作成して、特定の ACL の IP アクセス リスト コンフィギュレーション モードを開始するには、**ipv6 access-list** コマンドを使用します。IPv6 ACL を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ipv6 access-list *access-list-name*

no ipv6 access-list *access-list-name*

構文の説明

access-list-name IPv6 ACL の名前。名前にはスペースまたは引用符を含めることはできません。

デフォルト

デフォルトでは、IPv6 ACL は定義されません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザ ロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.1(2)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

IPv6 トラフィックをフィルタリングするには、IPv6 ACL を使用します。

ipv6 access-list コマンドを使用すると、IPv6 アクセス リスト コンフィギュレーション モードが開始されます。このモードで、IPv6 の **deny** コマンドおよび **permit** コマンドを使用し、ACL のルールを設定します。指定した ACL が存在しない場合は、このコマンドの入力時に新しい ACL が作成されます。

ACL をルータ ACL としてインターフェイスに適用するには、**ipv6 traffic-filter** コマンドを使用します。ACL をポート ACL としてインターフェイスに適用するには、**ipv6 port traffic-filter** コマンドを使用します。

すべての IPv6 ACL は、最終ルールとして、次の暗黙ルールが設定されます。

```
permit icmp any any nd-na
permit icmp any any nd-ns
permit icmp any any router-advertisement
permit icmp any any router-solicitation
deny ipv6 any any
```

ICMPv6 ネイバー探索メッセージを拒否するルールで IPv6 ACL を設定しなかった場合、最初の 4 つのルールにより、デバイスが、ネイバー探索アドバタイズメントおよび送信要求メッセージを許可します。5 つめのルールにより、デバイスは不一致の IPv6 トラフィックを拒否します。

IPv6 ACL の各ルールの統計情報を記録するには、**statistics per-entry** コマンドを使用します。デバイスは、暗黙ルールの統計情報を記録しません。暗黙のルールに一致するパケットの統計情報を記録するには、各暗黙ルールの一致するルールを明示的に設定する必要があります。



(注)

IPv6 の ACL に **deny ipv6 any any** というルールを明示的に設定すると、暗黙の **permit** ルールでトラフィックをまったく許可できなくなります。**deny ipv6 any any** というルールを明示的に設定するものの、ICMPv6 ネイバー探索メッセージは許可したい場合は、5 つの暗黙の IPv6 ACL ルールをすべて明示的に設定します。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、**ipv6-acl-01** という名前の IPv6 ACL の IP アクセス リスト コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ipv6 access-list ipv6-acl-01
switch(config-acl)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
deny (IPv6)	IPv6 ACL に拒否 (deny) ルールを設定します。
ipv6 port traffic-filter	IPv6 ACL をポート ACL としてインターフェイスに適用します。
ipv6 traffic-filter	IPv6 ACL をルータ ACL としてインターフェイスに適用します。
permit (IPv6)	IPv6 ACL に許可 (permit) ルールを設定します。
show ipv6 access-lists	すべての IPv6 ACL または特定の IPv6 ACL を表示します。
statistics per-entry	ACL の各エントリの統計情報の収集をイネーブルにします。

ipv6 port traffic-filter

IPv6 Access Control List (ACL; アクセス コントロール リスト) をインターフェイスのポート ACL として適用するには、**ipv6 port traffic-filter** コマンドを使用します。インターフェイスから IPv6 ACL を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ipv6 port traffic-filter *access-list-name* **in**

no ipv6 port traffic-filter *access-list-name* **in**

構文の説明

<i>access-list-name</i>	IPv6 ACL の名前。最大 64 文字で、大文字と小文字を区別した英数字で指定します。
in	デバイスが ACL を着信トラフィックに適用するように指定します。

デフォルト

なし

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.1(2)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

デフォルトでは、インターフェイスに IPv6 ACL は適用されません。

ipv6 port traffic-filter コマンドを使用することにより、次のインターフェイス タイプに対して、IPv6 ACL をポート ACL として適用できます。

- レイヤ 2 イーサネット インターフェイス
- レイヤ 2 イーサネット ポート チャネル インターフェイス

ipv6 port traffic-filter コマンドを使用することにより、次のインターフェイス タイプに対して、IPv6 ACL をポート ACL として適用もできます。

- VLAN インターフェイス



(注) VLAN インターフェイスを設定する前に、VLAN インターフェイスをグローバルでイネーブルにする必要があります。詳細については、『Cisco Nexus 7000 Series NX-OS Interfaces Command Reference』の **feature interface-vlan** コマンドを参照してください。

- レイヤ 3 イーサネット インターフェイスおよびサブインターフェイス
- レイヤ 3 イーサネット ポート チャネル インターフェイスおよびサブインターフェイス

- トンネル
- 管理インターフェイス

ただし、**ipv6 port traffic-filter** コマンドを使用してレイヤ 3 インターフェイスに適用した ACL は、ポート モードをアクセスまたはトランク（レイヤ 2）モードに変更しない限り、アクティブになりません。IPv6 ACL をルータ ACL として適用するには、**ipv6 traffic-filter** コマンドを使用します。

IPv6 ACL を VLAN ACL として適用することもできます。詳細については、P.394 の [match \(VLAN アクセスマップ\)](#) コマンドを参照してください。

ポート ACL が適用されるのは、インバウンドトラフィックだけです。インバウンドパケットは、デバイス上で ACL のルールに対してチェックされます。最初の一致ルールによってパケットが許可されると、そのパケットは引き続き処理されます。最初の一致ルールによってパケットが拒否されると、そのパケットはドロップされ、ICMP ホスト到達不能メッセージが戻されます。

デバイスから特定の ACL を削除した場合、インターフェイスからその ACL を削除しなくても、削除した ACL はインターフェイス上のトラフィックには影響しません。

レイヤ 2 インターフェイスで MAC パケット分類がイネーブルにされている場合、インターフェイス上では **ipv6 port traffic-filter** コマンドは使用できません。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、イーサネット インターフェイス 1/3 に対して、**ipv6-acl-L2** という IPv6 ACL を適用する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 1/3
switch(config-if)# ipv6 port traffic-filter ipv6-acl-L2 in
```

次に、イーサネット インターフェイス 1/3 から、**ipv6-acl-L2** という IPv6 ACL を削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 1/3
switch(config-if)# no ipv6 port traffic-filter ipv6-acl-L2 in
```

```
switch(config)# show running-config interface ethernet 2/3
```

```
!Command: show running-config interface Ethernet2/3
!Time: Wed Jun 24 13:13:48 2009
```

```
version 4.2(1)
```

```
interface Ethernet2/3
 ip access-group ipacl in
 mac port access-group macacl
 switchport
 mac packet-classify
```

```
switch(config)# interface ethernet 2/3
switch(config-if)# ipv6 port traffic-filter v6acl in
ERROR: The given policy cannot be applied as mac packet classification is enable
d on this port
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ipv6 access-list	IPv6 ACL を設定します。
ipv6 traffic-filter	IPv6 ACL をルータ ACL としてインターフェイスに適用します。
mac packet-classify	レイヤ 2 インターフェイス上の MAC パケット分類をイネーブルにします。
show access-lists	すべての ACL を表示します。
show ipv6 access-lists	特定の IPv6 ACL またはすべての IPv6 ACL を表示します。
show running-config interface	すべてのインターフェイスまたは特定のインターフェイスの実行コンフィギュレーションを表示します。

ipv6 traffic-filter

IPv6 Access Control List (ACL; アクセス コントロール リスト) をインターフェイスのルータ ACL として適用するには、**ipv6 traffic-filter** コマンドを使用します。インターフェイスから IPv6 ACL を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ipv6 traffic-filter access-list-name {in | out}
```

```
no ipv6 traffic-filter access-list-name {in | out}
```

構文の説明

<i>access-list-name</i>	IPv6 ACL の名前。最大 64 文字で、大文字と小文字を区別した英数字で指定します。
in	(任意) デバイスが、ACL をインバウンドトラフィックに適用します。
out	(任意) デバイスが、ACL をアウトバウンドトラフィックに適用します。

デフォルト

なし

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.1(2)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

デフォルトでは、インターフェイスに IPv6 ACL は適用されません。

ipv6 traffic-filter コマンドを使用することにより、次のインターフェイスタイプに対して、IPv6 ACL をルータ ACL として適用できます。

- VLAN インターフェイス



(注) VLAN インターフェイスを設定する前に、VLAN インターフェイスをグローバルでイネーブルにする必要があります。詳細については、『*Cisco Nexus 7000 Series NX-OS Interfaces Command Reference*』の **feature interface-vlan** コマンドを参照してください。

- レイヤ 3 イーサネット インターフェイスおよびサブインターフェイス
- レイヤ 3 イーサネット ポート チャネル インターフェイスおよびサブインターフェイス
- トンネル
- 管理インターフェイス

ipv6 traffic-filter コマンドを使用することにより、次のインターフェイス タイプに対して、IPv6 ACL をルータ ACL として適用もできます。

- レイヤ 2 イーサネット インターフェイス
- レイヤ 2 イーサネット ポート チャネル インターフェイス

ただし、**ipv6 traffic-filter** コマンドを使用してレイヤ 2 に適用した ACL は、ポート モードをルーテッド (レイヤ 3) モードに変更しない限り、アクティブになりません。IPv6 ACL をポート ACL として適用するには、**ipv6 port traffic-filter** コマンドを使用します。

IPv6 ACL を VLAN ACL として適用することもできます。詳細については、P.394 の [match \(VLAN アクセスマップ\)](#) コマンドを参照してください。

ルータ ACL は、アウトバウンドまたはインバウンドのどちらかのトラフィックに適用されます。ACL がインバウンドトラフィックに適用されると、インバウンドパケットが ACL のルールに対してチェックされます。最初の一致ルールによってパケットが許可されると、そのパケットは引き続き処理されます。最初の一致ルールによってパケットが拒否されると、そのパケットはドロップされ、ICMP ホスト到達不能メッセージが戻されます。

アウトバウンドアクセス リストの場合は、受信したパケットはインターフェイスにルーティングされたあとで、ACL に対してチェックされます。最初の一致ルールによってパケットが許可されると、そのパケットは引き続き処理されます。最初の一致ルールによってパケットが拒否されると、そのパケットはドロップされ、ICMP ホスト到達不能メッセージが戻されます。

デバイスから特定の ACL を削除した場合、インターフェイスからその ACL を削除しなくても、削除した ACL はインターフェイス上のトラフィックには影響しません。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、イーサネット インターフェイス 2/1 に対して、**ipv6-acl-3A** という IPv6 ACL を適用する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 2/1
switch(config-if)# ipv6 traffic-filter ipv6-acl-3A in
```

次に、イーサネット インターフェイス 2/1 から、**ipv6-acl-3A** という IPv6 ACL を削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 2/1
switch(config-if)# no ipv6 traffic-filter ipv6-acl-3A in
```

関連コマンド

コマンド	説明
ipv6 access-list	IPv6 ACL を設定します。
show access-lists	すべての ACL を表示します。
show ipv6 access-lists	特定の IPv6 ACL またはすべての IPv6 ACL を表示します。
show running-config interface	すべてのインターフェイスまたは特定のインターフェイスの実行コンフィギュレーションを表示します。